

自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました

令和6年6月13（木）、自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました（於 衆議院第一議員会館 国際会議室）。衆・参72名の先生方にご出席いただきました。

日本バス協会からは清水会長はじめ、古川環境対策委員長・外国人運転者受入推進部会長、早川税制対策委員長、金井労務副委員長、西村貸切副委員長などが出席しました。

冒頭、バス議連会長の逢沢先生から、運転手不足による減便などの影響が目に見える形で表れてきていることや、修学旅行の時期の集中で対応に苦慮しているなどの報告があることが述べられたほか、バスの自動運転はスピード感を持って取り組む必要があるなどのご挨拶を頂いたほか、キャッシュレスに関して、熊本で更新費用が抑制された事例を取り上げ、1枚のカードで全国バス・鉄道が利用できることが理想であり、更新時の予算措置を考えるべきとの問題提起がありました。



続いて清水会長から、乗合バスの運転手不足対策として賃上げが必要でありその原資を運賃改定で確保していくことが必要であることを述べたほか、貸切バスでは修学旅行への対応に関して、盛山文部科学大臣に対して修学旅行の実施時期の分散化を要望しました。また、自動運転バスのレベル4実現は日本の技術で国家プロジェクトとして早急に進めるべきとし、EVバスの予算も含め財政支援の大幅な拡充を強く求めました。さらに小銭を扱う運賃箱は200万円と高額で今回の渋沢栄一新紙幣

対応も大きな負担であり公共交通のキャッシュレスは国が推し進めるべきとして緊急な支援を訴えました。最後にバス再興10年ビジョンの中間とりまとめについて紹介しつつ、バスが夢のある産業となることを目指して頑張っていくとして挨拶を締めくくりました。そのあと西村貸切副委員長から、修学旅行分散化の要望について補足して説明がなされました。



出席された先生方からは、修学旅行の分散化について、文部科学省は足がなくなって困るのは学校であり生徒たちであることを念頭にリーダーシップをとって関係者間の調整を進めていくべき、などの発言があったほか、キャッシュレスについては更新時の費用に対する予算措置など、従来の発想を変えて支援を進めるべきといった多くのご発言をいただきました。文部科学省からは、修学旅行に関して関係団体の声も聞きながら教育委員会などとコミュニケーションを図っていきたい、との発言がありました。

最後にバス議連として政府に対する7項目の要望からなる決議を採択するとともに、逢沢会長から修学旅行の分散化については、各都道府県でそれぞれ地元の教育委員会や私学協会へ申し入れをして

ほしいので、先生方も是非お声をしてほしい、とのお話があり会議は終了しました。その後、議員会館地下4階駐車場へ移動し、**BOLDLY**(株)佐治社長の説明により自動運転バスの視察を行いました。